

大日方 邦子（おびなた くニコ）

令和7年10月27日
体育・保健体育、健康、安全WG
資料 1



3歳で交通事故により右足を切断、左足にも後遺症が残る。
義足や車いすを活用しながら、公立一般校で学ぶ。
高校2年の時にチェアスキーと出会い、スキーヤーとして歩み始める。
1998年長野パラリンピックでの日本人初(冬季大会)となる金メダルをはじめ、
合計10個のメダルを獲得。
選手を引退後、学校等での講演活動、競技団体役員や審議会委員など、スポーツ、
DEI、教育に関わる分野を中心に社会活動を行う。

- ・(株)電通 フェロー
- ・あいおいニッセイ同和損害保険(株)取締役
- ・日本パラスポーツ協会 理事
- ・日本パラリンピアンズ協会 理事

- ・渋谷区教育委員会 教育委員
- ・渋谷区スポーツ協会 理事
- ・スポーツ審議会 委員(～2024)
- ・スポーツ基本計画部会 委員
- ・教育振興基本計画部会(第11期) 臨時委員



課題意識

I. 学校における運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値

➤ 「スポーツの価値」を体感できる学びであるべき

＜第3期スポーツ基本計画より＞

- ・「スポーツそのものが有する価値」(Well-being)
楽しさ、学び、自発性に基づく本質的なもの
- ・「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」
スポーツを通じ地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、
経済発展、国際理解の促進…

➤ スポーツを学ぶことを通じたウェルビーイングの向上とは

それぞれの幸せや生きがいを感じることに

自己肯定感、自己実現、利他性、協働性、人とのつながり

運動・スポーツの学びから、

将来にわたり、自身の人生と社会を豊かにするための資質を獲得してもらいたい

➤ なんのために「体育・保健体育」を学ぶのか、本質的な問いにこたえる

発達段階に応じて段階的に理解を深めるカリキュラムが必要ではないか

II 体育において大切にしたい視点

➤ 「運動への苦手意識」を作らない・持たせない。

「得意」を伸ばす

運動スキルや競技規則の知識を持つよりも優先すべき視点

(例)

- ・ 100m走のタイムの良い子どもが高評価の絶対正義
- ・ 団体競技への参加「自分が足を引っ張ってしまう存在」と強く感じる
- ・ 自分の身体運動を他者に笑われたり、恥ずかしい経験を強いられる経験

➤ 運動能力を周囲の他者と比較する必要がないことを学べるカリキュラム

- ・ 子どもは大人をよく見ている
- 大人（教師・保護者）のマインドセットが大切

➤ 誰も取り残さない体育

一般校で学ぶ障害のある子どもも「好き」「得意」と言える体育の重要性

- ・ 身体運動が楽しかった経験、パラアスリートとして活きた
- ・ 「できること」「得意」を認めてもらえた体育の経験
- ・ 進学では体育の成績評価に苦労したが、運動はきらいではなかった

Ⅲ. 体育における「基礎基本」を見直す

- 体育において、個別の競技に関する動作やスキルの取得は少なく良いのでは

一定の運動スキルがあることを前提とした授業プログラムに、「できない」子どもも参加させる工夫は、苦手意識と他者への優越感を生む。
結果として一部の子どもを取り残す体育にしないことが大切
本質的な「基礎基本」の議論。

- 学ぶ方法の多様化。自由で柔軟な学びを選ぶように
(例) ボッチャなどユニバーサルなスポーツの活用、
地域との連携交流 ～多世代・多文化
e-sportsやバーチャルスポーツ
- 「する」に偏らない「見る」「支える」視点での学びの充実
他方、「見る」「支える」に偏った体育も本質ではない
(第3期スポーツ基本計画 目標設定)
体育の授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロ
- 障害のある子どもと障害のない子どもがともにスポーツ・運動を学ぶ機会の拡充
体育分野における特別支援教育との連携

課題意識

IV. 体育・保健体育分野における主体的・対話的で深い学びとは

➤ スポーツは、教科横断的な視点での学びや探求学習に適している

- ・理数教育 スポーツにおけるデータの活用
- ・英語教育 スポーツにおける共通体験。少ない英単語でも共通理解が進む
- ・社会参画・主体性の獲得、子ども基本法の趣旨
子ども自身が意思表示をし、社会参画する機会を作る
(例) みんなで楽しめるスポーツのルールを作ろう
なぜ、ルールがあるのか？ ルールを変えるとどうなるか？

V. 教師に求められる資質・役割の変化

「教える」ことからの脱却、解放

子ども自らが考え、学ぶためのアドバイザー

ファシリテーターやコーディネーター的な資質

⇒新たな資質を得るためには教員自身が探求する時間が必要

VI. 保健と安全に関する現代課題

➤ 性被害・加害を防ぐための学び

➤ 認知症への理解。

➤ スクリーンタイムの増加 視力・睡眠・精神的な課題、姿勢

- ・頭部外傷リスクとヘルメット着用の効果～自転車通学、電動キックボードの普及